

大和ブロック交流研究会まとめ

2013年度 大和ブロック交流研究会

I ブロック交流研究テーマ

「小中の連携を深め、児童生徒の教育課題についてともに考えよう」

II テーマ設定の理由

これまで、授業参観等を通して、具体的な児童生徒の様子を話題としながら、児童生徒の学習課題・生活課題について話し合うことで、小・中学校の連携のあり方について探ってきた。

今年度も、これまでの研究をもとに、小・中学校連携の意義の確認と児童生徒が抱える様々な教育課題について、ともに考えることで、児童生徒のよりよい成長を目指していきたい、と考え、このテーマを設定した。また、甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとの連携も図りながら、系統的な教育のあり方について考えていきたい。

III 研究計画

第1回 2013年 8月 21日（水） 会場：道の駅甲斐大和

- 内容
- ・ 臨地研修（地域の方からのお話「地域素材を生かした地域活性化」
うらじろまんじゅうづくり）
 - ・ 小中学校の校内研究
 - ・ 小中学校の情報交換

第2回 2012年11月15日（水） 会場：大和中学校

- 内容
- ・ 大和中学校の授業参観
中学1年生 英語 「Which is ~, A or B ?」
杉山 智恵教諭
 - ・ 小中学校の情報交換

第3回 2012年 1月22日（水） 会場：大和小学校

- 内容
- ・ 大和小学校の授業参観
小学6年生 英語活動 「さまざまな職業を英語で言おう」
清水 誠治教諭
ジェイソン・ミラー教諭
 - ・ 小中学校の情報交換
 - ・ 今年度の研究のまとめ

1) 成果について

- ・小中の情報交換をすることで、お互いの様子や共通の課題や相互理解を図ることができるのはとてもよい。
- ・地域の特性や小規模校の課題などを共有し、それについてどう連携していくか話し

合えることは有意義であった。

- ・小学6年生と中学1年生の授業を参観し合ったことで、次年度につながる話し合いができた。
- ・小規模校としての課題は、小学校も中学校も同じだなと感じた。情報交換することで共通理解を図ることができ、協力し合うことも可能になる。
- ・臨地研修では、大和地域の特産品について学び、地域理解が深まった。
- ・小中の職員間の交流も深められた気がする。そういうことが大切であると感じた。
- ・小中でつながりのある指導を考えるために、小6と中1の英語の授業を参観した。英語という面からも、子どもの様子を知る面からもいい機会となった。
- ・地域理解を深めるための大和地域の特産品うらじろまんじゅうについて臨地研修を行った。地元の方からのお話もうかがって、大和地域を知ることができた。地域の方の郷土を大切にしたいという思いが強く伝わった。
- ・2月には、小学6年生の中学校での体験授業や中学校の教員による出前授業が予定されている。毎年続けていってほしいと思う。
- ・年間で3回しかない研究会であるが、大変有意義であると思う。

2) 課題について

- ・小中で同一歩調で指導していけるところなどを検討していきたい。
- ・小規模校の課題として、人間関係の狭さが挙げられる。もっと多くの人と交流する機会を数多く設けていく。
- ・小中の系統的な教育のあり方などを今後も考えていきたい。
- ・他の小規模校の実践などについて学習会などを設けてはどうか。
- ・出前授業や小中学生の合同授業などを行ってみてはどうか。
- ・より地域との連携を図るために、小・中・保育所などが集まって地域の教育課題について話し合うこともできるのではないかな。
- ・今後もざっくばらんに話をして個々の児童生徒にあった、きめ細かな指導を心がけたい。
- ・生活指導についても、小中一貫した指導を目指したい。